

## 未来眼やまがた 第6回

# 21世紀は文化の時代

地域には、地域独特の自然風土と、自然風土が育んだ精神風土がある。日本並びに山形の自然風土・精神風土などについて株式会社千歳建設代表取締役会長千歳栄さんに聞いた。

### ■ 21世紀は文化の時代

**町田** 20世紀は科学技術優先、あるいは経済優先の時代だったと思うのですが、21世紀はそれではもたなくなってきた、哲学とか宗教が重要な時代ではないかと感じています。

●千歳 栄 (ちとせ・さかえ)  
1928年山形市生まれ。山形県立山形工業学校卒業。山形県建設業協会会長などを歴任。山形県中小企業団体中央会会長、東北芸術工科大学東北文化研究センター運営委員長、国土交通省「文化観光懇談会」委員なども務める。著書に『山の形をした魂 山形宗教学ことはじめ』、『詩まんだら』、『神々の風光』がある。

**千歳** 経済と文化は生活の両輪です。戦後の経済成長期には経済が優先し、文化はその陰に隠れた存在でした。しかし、真の豊かな社会を築くためには、文化の復興が不可欠です。21世紀は文化の時代と思っています。今の日本の社会は精神的に非常に荒廃していて、毎日これだけいろいろな形の犯罪が頻発しているというのは少し異常です。自殺も相当なもので、年間3万件を超えています。このままでは本当に立ち直れるかどうか、それさえ危惧される時代です。どのように立ち直らせるか、甦らせるか、これはなかなか難しい問題だと思います。

**町田** 世界的に見ても、すでに行き詰まりの兆候が見え始めていますね。軍事優先というか、ユニテラリズム、アメリカ一國主義というものが、どうもうまくなってきています。サミュエル・ハンチントンというアメリカの政治学者が『文明の衝突』を発表以来、その通りに世界も動いているという感じがしています。文明ではなくて正確には文化なのかもしれませんが、特に今はイスラム世界と欧米世界との、何とも救いようのない争いが起こっています。人類を救うということになると、一神教同士の争いではなく、もっと広い寛容な宗教が必要ではないかと。その点では、まさに日本古来の宗教・信仰というものが大変大事になってくるのではないかと思います。

### ■ 山形山岳マンダラ

**千歳** 昭和61年に法務省が発表した、全国の犯罪種類の統計があります。実際にはその後も調査した統計があると思いますが、公表されたのはその1回だけなので大変貴重な資料となっています。その統計から分かることは、山形県は強盗や殺人といった凶悪犯の発生率が全国で一番少ない県であるということです。山形県に犯罪が少ないのは、県民の道徳心が高いこととあり、その道徳心を育んだのは信仰心で、その信仰心を育てたのはマンダラを形成する山々ではないかと考えます。

**町田** マンダラというのは仏教用語なんですか。西洋でのコスモスというのか、ある種の宇宙観みたい



なものです。

**千歳** 仏教用語ですが、密教の言葉ですね。「曼荼<sup>マンドラ</sup>」  
というのは「本質」という意味で、「羅<sup>ワ</sup>」というのは  
「集める」ということです。今、頭取がおっしゃった  
地球や宇宙を見るときの、一つの本質の集大成のよう  
なものです。マンダラとは、生きている人だけでなく、  
死者も含めて現在が成り立っているということ、  
そして命というのは、生者も死者も、動物も植物も、  
みんな一つの生命体としてあるという認識が、マンダ  
ラの思想と考えています。

## ■ 日本人は非常に信仰心の強い民族

**町田** 日本人というのは信仰心がないとか、宗教がない  
とかということについて、明治維新以降ずっとコン  
プレックスをもっていたと思います。それで明治時代  
に世界へ出た日本人は、何らかの形で自己弁護しよう  
としたのだらうと思います。『武士道』を書いた岩手  
県出身の新渡戸稲造、戦前の国際連盟の次長をおやり  
になった方ですが、国際人として、日本人には宗教が  
ないのかということに対するある種のアンチテーゼと  
して武士道精神というものを出されたのだらうと思  
います。内村鑑三も同じ問題意識を持っていて、『代  
表的日本人』の中で日本には精神文化を体得した多くの  
人間がいたということを書いています。どちらも最初  
は欧米人向けに英語で書いていて、我々が読んでい  
るのは、日本人向けに翻訳したものです。しかし本来、  
日本人というのは、アニミズムと言いますか、あらゆ  
るものに神が宿っているという、大変素朴であるけれ  
ども豊穡な精神の世界を持っていたと思います。

**千歳** 宗教というものを、ある人は次のように定義し  
ています。宗教というのは“根本の教え”ということ  
ですから、それを教えた人がいる。例えば、キリスト  
教であればキリスト、仏教であれば釈迦、いわゆる  
「教祖」です。そういう人が説いた教えが「教義」に  
なって、その教義を慕って人々が集まると「教団」に  
なる。このように、「教祖・教義・教団」があるのが、  
宗教としての一つのまとまりではないかと。ところが  
日本人は、教祖ぐらゐは知っていますが、教義になる  
とあまり分からないのが現状です。例えば、日本人の  
多くは仏教徒ですが、「浄土真宗とはどのような教えで  
すか」と聞かれても、親鸞の名前は知っていても、深  
くその心の世界を知る人はほとんどいません。しかし  
正月になると神社にお参りをするし、彼岸になればお  
墓参りをする。そのような意味で、日本人は宗教をあ  
まり意識していませんが、ベースになっている信仰心  
は非常に強い民族ではないかと思えます。



●町田 睿（まちだ・さとる）

1938年秋田県生まれ。東京大学法学部卒業後、株式会社富士銀行入行。同行  
取締役総合企画部長、常務取締役を経て、94年株式会社荘内銀行取締役副頭  
取就任、95年より現職。

## ■ お茶と禅がきっかけ

**町田** 千歳会長は民俗宗教学を研究する在野のお一人  
であると尊敬しています。特に今は、東京一極集中で、  
あらゆるものが東京発になっていますが、地方にあっ  
て、最も日本的なものの本質を極められた宗教学者で  
あると思っていますが、そういう宗教学にたどり着い  
たきっかけは何でしょうか。

**千歳** 30歳の時に、過労が重なって胃潰瘍で倒れまし  
た。その時『日本財界人物伝』という十何冊かのセッ  
トを買って、病院で毎日そればかり読んでいました。  
森島昶、鈴木三郎助、益田孝、小林一三、松永安左エ  
門、五島慶太など、明治・大正・昭和を生きた実業家  
ですが、特に惹かれたのが小林一三や松永安左エ門で、  
松永安左エ門の本なんかは、退院するときにはボロボ  
ロになっていたくらいでした。そして読み終わったと  
きにふと気がついたのは、それらの人たちに共通点  
があったことです。その共通点というのは、一つは仕事  
が好きで、そしてもう一つはお茶と禅をやっていた  
ことでした。そのような経緯があって私もお茶を始  
めたのですが、作法や動作よりも、「お茶とは何なのか」  
とか、「お茶を始めた利休とはどんな人なのか」とか、  
そんなことを考えながら、数寄屋の世界、茶室の世  
界に入っていました。茶室だけで10年ほど没頭した時  
代があったくらいです。

禅の方は、臨済禅から始めて、それから曹洞宗の道  
元の世界に入っていました。しかし、どうも禅は立

派すぎて窮屈に思いまして、法然や親鸞の思想にひかれるようになりまして。つまり禅と浄土ですから、鎌倉仏教ですね。それから日蓮にも同様の興味を持って、だいたい鎌倉仏教の輪郭が見えたところで、今度はこれらの源流を知りたくなりました。調べてみるとそれは平安仏教で、今度は最澄の天台と空海の真言密教にひかれていきました。そしてその輪郭が見えてくると、法相や華嚴という奈良仏教の思想にも興味を持つわけですが、こんな経緯で密教に関わりを持ったことが、山形の修験道や山岳宗教などに結びついたのでと思います。

**町田** 経営者の端くれとして、私が座右の銘にしている「一隅を照らす」は天台宗の思想でしょうか、人を育てるということは、ある意味、究極の目標なんだと。経営者にとって何が一番大事かという人材育成、生意気な表現ですけども、銀行の人材をいかに本当に世の中のお役に立つような銀行員にしていくかだと思っています。

**千歳** 「経寸十枚 是れ国宝に非ず 一隅を照らす 此れ則ち国宝なり」というのは最澄の言葉で、経典が国宝なのではなく、それよりも大切なのは人を育てるとのことですね。

## ■ 職人は本当に素晴らしい

**千歳** 数寄屋の世界は、日本文化の宝だと思います。地方都市で、例えば山形市の宝紅庵ほうこうあんとか山寺芭蕉記念館こざんそうろう、長井市五山草廬ござんそうろう、寒河江市の臨川亭りんせんてい、酒田市の出羽遊心館など、京都以外にこれだけ伝統数寄屋を残している県は他にないと思います。私は何とか残したいと思っているのですが、このような職人の世界は仕事がないと消えていきます。仕事があれば職人は生き生きして、技術を伝承していきます。先般、日本一の数寄屋建築業で、桂離宮などの日本の代表的な建築に携わっている京都の安井工務店の方と話したときも、「仕事が少なくなった。事業のことはいいとしても、日本の文化が消えていくことが寂しい」と言っておられました。

**町田** 千歳会長は建築業で立派な事業を興されて、実用と芸術の集合体としての作品が随所に残っておられますが、その中でも大きな作品の一つである文翔館の修復は大変ご苦労されたと思います。

**千歳** 私はどんな仕事でも、取り組む前にその仕事について深く調べる癖がありまして、旧県庁舎のときも調べてみました。すると中身は細部にいたるまで凝ってつくられていて、しかもそれをつくったのは、ほとんど中央から来た職人で、地元の職人は2割くらいお

手伝いした程度だったことが分かったのです。ですから修復にあたっては、その比率を逆転させたいと思ひまして、地元の職人で何とか大半を請け負って、どうしても間に合わない職人、例えば木羽職人かざりや鋳職人などの特殊な技術をもつ職人についてだけ県外から来てもらうことにしました。私は職人の子ですから、山形の職人の技量は分かりますので、地元でできないことはないと思っていました。

作業に取り掛かる前に、私がつくった「職人の詩」という詩を職人たち一人ひとりに渡して、このような心意気でやろうと意志統一しました。特に難しかったのは天井飾りで、請け負ったのは当時30歳代後半の大石田町出身の左官職人でしたが、なかなかの男でした。職人って素晴らしいんですよ。私は職人をよく知っているからそう思うのかもしれませんが、本当に素晴らしいです。

## ■ 人間は自然の一部

**町田** やはり日本人というのは、ものづくりの民族なのかなと感じます。最近の中国とアメリカというのは、まさにこれから権力闘争でぶつかるような感じがしながらも、実は非常にメンタリティーが似ているんですね。ところが日本人は違うんです。そうすると日本人らしさというのは、何かものづくりと関係するのかなと、そんな印象を持っています。

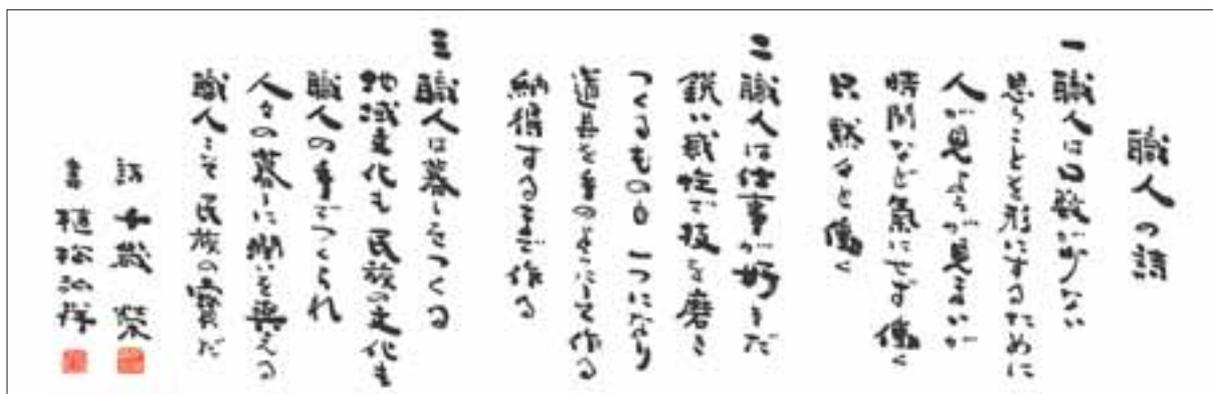
**千歳** それは、日本は自然が豊かだからだと思います。四季があって、色彩がきれいで、繊細なんですね。縄文土器などを見ると、まさにそう感じます。特別な能力を持っている民族だと思います。

**町田** 若い頃、父から和辻哲郎の著書『風土』を必ず読めといわれましたが、風土が人間をつくっていく、地域をつくっていくという説に共鳴を覚えました。

**千歳** 人間というのは自然の一部なんです。自然の寛容の中で生きているわけですから、風土が変われば変わるんです。

**町田** 四季があるのは、我々は当たり前だと思っていますが、大変大事なことなんでしょうね。私もこの12年間、鶴岡と山形とを行ったり来たりしていますが、月山が何とも素晴らしいですね。四季折々の景色にその日の天候が加わり、何千枚の風景画を観る思いです。

**千歳** 逆境や苦しみがないと喜びがないし、成長もないのではないのでしょうか。最近の子供を見ると、つくづくそう思いますね。モノがありふれた時代ですから「何が欲しい？」と聞いても、「格別ない」と言います。昔は、苦しみがあるとそれを乗り越えようとする、モノがなければ努力して求めようとしたのですが、今の子



『職人の詩』 詩：千歳 栄 書：植松 弘祥

供にはそういうのがありません。ハングリーさがないんですね。

**町田** 天罰かもしれませんね。私も小さいときは、秋田の田舎で過ごしたものですから、春が来るというのは、氷を割って、その下に見える土を見て、「あー春が来た」なんていう実感がありましたね。

**千歳** それが季節感であり、感性の源泉ですね。山形に歌人が多いのも自然の影響ですね。齋藤茂吉にしても蔵王の景観が影響していると思います。

## ■ 文化力で日本を再生

**町田** 日本の将来を考えたときに、これからどうやっていったらいいんだろうかと考えますと、やはり日本の持つ独特の文化風土を大きな力にしていく必要があるのではないかと考えています。

**千歳** 私も日本の文化力だと思います。私が大変お世話になっている多摩美術大学の芸術人類学研究所初代所長に就任した中沢新一先生は、今、日本人を救うのは芸術人類学だと言っています。芸術人類学という新しい学問を立ち上げて、それで立ち直らせたいと。私も賛成です。中沢先生のおっしゃることは難しいこともあるのですが、なるほどと頷けることがたくさんあります。人間は十万年前に脳の構造が変わり、いろいろ進化してきて、近代文明で侵された…というのは不適切な表現かもしれませんが、おかしくなってきました。でも、まだ侵されない部分が残っていると言うんです。それが無意識の中にあると。それが「芸術」を生み出しているというのです。それを呼び戻すことによって、人類を再生すると言っています。

**町田** 「真」「善」「美」という人類が非常に価値を置いてきたものがあります。その中で「真」というのは真理を極めるということですが、下手をすると悪魔にその技術を売り渡すようなところがあって、核開発なんかもその象徴だと思います。「善」というのも非常

に大事なことなのですが、独善的な善というのはむしろ対立を生んだりします。そうすると「美」というのが最も値打ちの高いものではないのかと、最近そういう思いがしております。

**千歳** クロード・レヴィ・ストロースの著書である『野生の思考』という本がありますが、もう一度人間は“野生”に戻るべきという、同じようなことを中沢先生も考えているんですね。ヨーロッパでレヴィ・ストロース、東洋で中沢新一のような考え方になってくると、もう少し世の中が変わってくるかもしれません。自然や宇宙の中には、まだまだ我々が学ぶべき原理がたくさんあるはずですよ。

## ■ 文化観光への取り組み

**町田** 千歳会長は、国土交通省の文化観光懇談会の委員にもなられていますね。

**千歳** 昨年立ち上がったのですが、日本が世界に誇れるものは「精神文化」ではないかと思っています。精神文化を中心にした観光を考えていかないと、一過性で長持ちしないだろうと思うのです。文化観光懇談会では、それをきちんと整理をしながら、世界に訴えていこうとしています。その手始めに、日本の精神文化を解説した観光地のガイドブックを英文で出版し、フランスを中心にしてヨーロッパで広めようとしています。それがきっかけで、ヨーロッパの有識者などが訪れるようになると、黒船効果で本物が出てくるのではないかと考えます。私も日本の精神文化を紹介するドキュメンタリー映画「山という魂－東北ハヤマ信仰－」を制作しているところです。

**町田** これからは観光の時代ですが、観光もご指摘のように上滑りの観光ではなく、中味が入った「文化観光」という観点は大変大事なことだと思います。

本日はお忙しいところありがとうございました。